

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

ひかり

施設番号	
施設名	ソラスト前野町保育園
施設所在地	〒174-0063 東京都板橋区前野町2-1-20 エステート前野町20号棟1階
法人名	株式会社 ソラスト

対象年齢： 0 歳児

1. 活動のテーマ

<テーマ>

- ・ひかりやキラキラした物に興味を持つ
- ⇒ ひかりやキラキラした物に興味を持つと同時に身体を動かしている。
- ⇒ 歩けなかった子が歩けるようになったり、子どもたちは出来るようになったことを行いたいのではないかと考え始める。
- ⇒ 「ひかり」と「身体を動かす」2点にテーマを変更

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・ひかりやキラキラした物に興味を持つことで、好奇心を刺激し探求心を育ててほしい。
- ・視覚の発達を進め、集中力を高めていきたい。

2. 活動スケジュール

- ① 4月：鏡に気付く（キラキラした物を目で追う、近付こうとする。）
セロファンメガネを楽しむ。
- ② 6月：スズランテープでキラキラしたカーテンを作成。（手を伸ばす。触ってみようとする。触る）
- ③ 10月：運動会でキラキラカーテンを取り入れたサーキットを行う。
- ④ 12月：生活発表会でセロファンメガネを使用する。
- ⑤ 12月：ソフトブロックの購入
- ⑥ 2月：節分製作でセロファンを使ったに鬼のお面を作成

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したのか。準備した素材や道具)

- ・ミラーシールを壁に貼る。・キラキラした飾りを上からつるす。
- ・セロファン紙でメガネを作る。
- ・アスレチック

4. 保育活動の実践

<活動内容>

日々の活動で取り入れたことを年間を通して行事にも取り入れた。

- ・セロファンメガネを楽しむ。
- ・キラキラしたカーテンを触って、引っ張ったりしながら楽しむ。
- ・ソフトブロックで身体を動かして遊ぶ。
- ・製作に色セロファンを取り入れる。

<保育中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり)

- ・はいはいで鏡に近付き、喃語を話して楽しんでいた。
- ・キラキラした飾りに手を伸ばし触れようとしていた。
- ・「トンボのメガネ」の歌をうたうとセロファンの付いたメガネを揺らしたり、眼鏡から見える世界を不思議そうにしていた。

<活動中の様子が分かる写真> ※2枚以上の公開可能な写真



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子ども自身が興味のあるものを手に入れようと試行錯誤しながら動くことで、求めたものが手に入る経験と同時に起こる楽しさがその子の次への原動力になっているように思えた。0歳児は個人差もあるので、発達段階を把握しながら出来る事をやらせてあげることが大事で、ひとりひとりがどのようなことに興味関心を持つかを考えながら、玩具を提供したり環境作りをする必要があることに気が付きました。

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

対象年齢： 1歳児

施設番号	
施設名	ソラスト前野町保育園
施設所在地	〒174-0063 東京都板橋区前野町2-1-20 エステート前野町20号棟1階
法人名	株式会社 ソラスト

1. 活動のテーマ

<テーマ>

動物を探求する。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・1歳児クラスで物の名称を発語するのに動物が親しみやすいと考えた。
- ・ものの色や大きさの違いに気付く菊花絵になると考えた。

2. 活動スケジュール

- ・ブロック遊びを行う中で、様々な動物に興味を持ち、種類を知ったり名前を呼んだり、それぞれ違いがある事を1歳児なりに知る。
- ・大きさの違いに気付く「パパ」「ママ」などに見立て遊びを楽しむ。
- ・図鑑と見比べながら大木の違いや高い低いの違いの違いを知る。
- ・動物の名前や色、形の違いを知る。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したのか。準備した素材や道具)

- ・レゴブロックの動物を使用し、遊びの中で興味や親しみが持つことが出来るようにした。また途中からは基礎版を使い、自分が思う動物園であったり、動物の種類分けを楽しむことが出来るようにした。

4. 保育活動の実践

<活動内容>

- ・動物ブロックを用いて様々動物の種類があることを知ったり、鳴き声や名前と結び付けられるようにした。
- ・基礎盤を使って自分の思い浮かべた世界観を作り上げる様子が見られた。色別に動物を並べたり、大きさごとに分ける様子が見られた。
- ・動物カードに移っていた動物の写真と同じ動物ブロックを探して遊ぶ様子が見られた。
- ・動物カードをカルタに見立ててカルタ遊びを楽しんでいた。

<保育中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり)

- ・まだ言葉が出ない子もいたため、名前などを知らせる際はゆっくりハッキリ伝えるようにしていた。
- ・大きいブロックを親に見立てて「ママパパ」と呼ぶ様子が見られた。

<活動中の様子が分かる写真> ※2枚以上の公開可能な写真



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・動物の名前を知ると共に鳴き声を言ってみたり、お友達となりきって遊ぶ中で言語の習得に結びついていると感じた。
- ・動物の種類や大小の違いに気付けるようになった。
- ・イラストやキャラクターから動物を知ったが、図鑑やカードを通して、実物を結びつけるようになった。

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	ソラスト前野町保育園
施設所在地	〒174-0063 東京都板橋区前野町2-1-20 エステート前野町20号棟1階
法人名	株式会社 ソラスト

対象年齢： 2 歳児

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然に興味を持つ

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

虫や花、落ち葉や木の実など、自然物に興味を持ち、拾ったり持って帰りたがる姿が多く見られるようになったから

2. 活動スケジュール

6月頃～8月 ヒマワリの種を植えて水やりを行い、観察

10月頃 落ち葉や木の枝、落ちている花びらを拾って持ち帰り、観察

11月頃 拾った落ち葉を使って服や王冠を作る。また、紙に落ち葉や花びらを貼って自由に作品を作る

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したのか。準備した素材や道具)

ヒマワリ・・・ヒマワリの種、土、プランターの代わりにペットボトルを使用。

落ち葉で服作り・・・ビニール袋を一人一枚、紙で作った王冠の台紙

4. 保育活動の実践

<活動内容>

- ・ヒマワリを育てる
- ・落ち葉で服を作る
- ・落ち葉や花びらを使って作品を作る

<保育中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり)

- ・ヒマワリは毎日育つのを楽しみに観察していた。結果枯れてしまったことを伝えると残念そうにしていたものの、代わりに家で育てる子どももいた。
- ・落ち葉拾いは色や形などに注目して拾うように伝えると「これはてんとう虫みたいだね」「これは形が面白いね」と見つけた葉っぱの特徴を保育者に伝えながら拾っていた。

<活動中の様子が分かる写真> ※2枚以上の公開可能な写真



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・活動を通してより自然に興味を持ったり、虫などに優しく接するようになったと感じる。また、「花を育ててみたい！」等子どもたちから声上がることもあり、興味がさらに広がっていくのを感じた。
- ・友達と拾った自然物を見比べて違いに気付いたり、友達との関わりもさらに深まったように感じた。

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	ソラスト前野町保育園
施設所在	〒174-0063 東京都板橋区前野町2-1-20 エステート前野町20号棟1階
法人名	株式会社 ソラスト

対象年齢：3歳児

1. 活動のテーマ

<テーマ>

五感

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

幼児組になり様々な事に興味を持って取り組んでいる様子を見て、五感を使って色水作りや食育等を通して更に興味の幅を広げていきたいと思ったから。

2. 活動スケジュール

8月・9月 絵具で色水遊び
11月 オシロイバナで色水作り
12月 出汁飲み比べ、鰹節削り

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したのか。準備した素材や道具)

色水作り：絵の具、色の混ざり表を見て自分で色作りできるようにした。プラコップ、調味料チューブを購入し、自分だけの色水を作り楽しめるようにした。

オシロイバナ色水：オシロイバナ、プラコップ、ビニール袋を使って自分で揉んで色水作りをした。

出汁の飲み比べ：かつお出汁、にぼし出汁、しいたけ出汁、昆布出汁をその場で作り飲み比べをした。

鰹節削り：削り器を使って自分で鰹節を削った。

4. 保育活動の実践

<活動内容>

- ・色水作り（前回の学びを生かしてできるように2回行った。）
- ・オシロイバナをビニールに入れて自分で揉んで色水を作り、色の濃さや匂いの濃さの違いを比べた。
- ・出汁飲み比べ 4種類の出汁の飲み比べをし、違いを話したり、好きな出汁を見つけたりした。
- ・鯉節削り 自分で鯉節を削り触ったり匂いを嗅いだりして楽しんだ。

<保育中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり）

- ・色水は自分で何色と何色を混ぜたらどうなるか保育者に伝える姿が見られた。その後も色について友だちと話す姿も見られた。
- ・オシロイバナで色水作りをした後に公園でも咲いている花で色水ができるか実験している児もいた。
- ・出汁については給食の汁物等にどんな出汁が入っているか気になり保育者に尋ねるようになった。

<活動中の様子が分かる写真> ※2枚以上の公開可能な写真



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・活動を通して色には興味を持っていた。しばらく色についての話を友だちとしたり戸外遊びでも実験の続きをしようとする姿が見られた。
- ・出汁についてもどんな出汁が入っているのか興味を持ち、保育者に尋ねたり給食の先生に聞きに行くなど自発的な行動が見られた。
- ・聴覚的分野ももっと経験出来たら良かった。

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	ソラスト前野町保育園
施設所在地	〒174-0063 東京都板橋区前野町2-1-20 エステート前野町20号棟1階
法人名	株式会社 ソラスト

対象年齢：4 歳児

1. 活動のテーマ

<テーマ>

他者を思いやる心を育む

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

日常生活の中で、他者の言葉に耳を傾けたり思いに気が付くことに難しさがあり、他者との言い争いやトラブルが絶えない様子が見られる。
プログラムを通して起きている状況について考えたり考えを言葉にすることを繰り返しながら他者を思いやる心を育んでいく。

2. 活動スケジュール

9月初旬 気持ちが題材となった絵本を配置する
10月初旬 イラストを用いて、状況や感情を考える遊び
10月後半以降 気持ちに気が付いた時に発表する

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したのか。準備した素材や道具)

気持ちや感情が題材となった絵本を複数用意し、子どもたちが自由に取り出せる箇所に「きもちの絵本コーナー」として設置した。
「きもち」を発表したり手紙に書いたりができるように、発表タイムを設けたりお手紙が書けるようなカードを用意した。安心できる環境の中で自身を持って表現できるようにした。

4. 保育活動の実践

<活動内容>

- ◎気持ちの絵本の読み聞かせ
- ◎イラストを用いて、状況や気持ちを考える遊びを、日常的に行う

<保育中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり)

- ◎気持ちの本を読み聞かせると、自分たちの気持ちを話したい様子が見られたので自由に発表する時間を設けるようにした。経験にもとづいて感じたことを友だちや保育者に進んで話すことを楽しんでいた。
- ◎落ち込んだ時などは特に、自ら気持ちの絵本を手にとり、読みながら気持ちを切り替える児がいた。気持ちの本を読んでいる友だちに「どうしたの?」と心配そうに声をかけたり、一緒に本を読みながら「この気持ち知ってるよ」などと会話をする様子も見られるようになった。
- ◎気持ちを手紙に書いてもいい事を教えると、手紙を書きたがる児が増えた。画用紙などを使い簡単にカードが作れることを伝えると、落ち込んだ友だちに励ますためのお手紙を書く児などが見られた。

<活動中の様子が分かる写真> ※2枚以上の公開可能な写真



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ◎気持ちを表す言葉をあまり知らないように見えたが、読み聞かせや発表することを通して少しずつ語彙が増えているように感じた。
- ◎イラストや絵本などを客観的に見ることで、状況に対する感情のイメージを具体的に持つことができたように感じた。
- ◎絵本やイラスト以外にも感情に触れることができる活動(劇遊び)などを取り入れ、興味関心をさらに広げたいと思った。

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	ソラスト前野町保育園
施設所在	〒174-0063 東京都板橋区前野町2-1-20 エステート前野町20号棟1階
法人名	株式会社 ソラスト

対象年齢：4 歳児

1. 活動のテーマ

<テーマ>

様々な音に触れ、音の多様性を知り興味関心を深め、豊かな感性や想像力を育む

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

活発な児が多く、日常的に動き回り大きな声で歌ったりしゃべったりと賑やかな環境下で生活している背景がある。
子どもたちが興味を持っている、大きな音を鳴らす、出すといった活動から音への興味関心を引き出したいと考えた

2. 活動スケジュール

9月初旬 様々な素材を使った音探し
9月下旬 廃材を使った楽器作り
10月末 楽器遊び
12月下旬 生活発表会にて演奏

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したのか。準備した素材や道具)

「音探し」「楽器作り」では、牛乳パック、食品トレイ、ペットボトル、お菓子の空き箱、ビニール袋、ビー玉、輪ゴム、サランラップの芯、プラスチックや木製の棒など安全に扱えそうな物道具や廃材を準備した。「楽器遊び」ではカスタネット、トライアングル、タンバリン、マラカスを準備した。いずれも子ども達がやりたい事や考えたことを自由に行えるよう、和やかな空間を用意し、活動を見守るようにした。

4. 保育活動の実践

<活動内容>

- ◎「音探し」・・・道具や廃材を叩く、振る、息を吹きかけるなどし様々な音を鳴らした。
- ◎「楽器作り」・・・音探して楽器のイメージを持ったようだったので、廃材を使い楽器を作りを行った。
- ◎「楽器遊び」・・・本物の楽器へのあこがれを持つようになったので、カスタネット、トライアングル、マラカスに触れ鳴らしたり音楽に合わせてみた。
- ◎「発表会」・・・自分たちの演奏を保護者の前で発表した。

<保育中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり)

音探しでは使った素材によって音が違うことなどに気がつき、友だち同士音を聞かせ合ったり大きさを比べていた。「楽器を作ってみよう」という声も出た。楽器作りではギターやたいこ、ピアノなど好きな楽器を作り、友だちと一緒に鳴らしたり、友だちと演奏ごっこを楽しんでいた。クラス全体の中で「音楽会をしたい」といった声や「タンバリンを鳴らしたい」と具体的な楽器名が出てきたので、楽器遊びを行った。楽器遊びでは「先生、音楽をかけて」と曲をリクエストする児もいた。好きな曲に合わせて自由に楽器を鳴らしたり、リズム遊びが楽しめるような曲を保育者が提案すると、様々なリズムにチャレンジしようとする児もいた。12月に発表会がある事を見たちも知っており、「パパやママに見てもらいたいね。」と言った声が聞かれるようになったため、発表会では自分たちで選んだ曲に、覚えたりリズムを合わせて演奏することに決定した。

<活動中の様子が分かる写真> ※2枚以上の公開可能な写真



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

日頃から道具があれば「たたきたい」「大きな音を出したい」といった感情があるように見受けられており、その気持ちを存分に出す機会を考えていたので、すくわくプログラムはよいきっかけとなった。好きな事を存分に行う中で、「この楽器をやってみよう」「リズムに合わせてみたい」など、自分たちの「やりたい」事を、自分自身で明確にすることができたように思った。年中の発表会で行う演目についても、子どもたちがやってみようという事から企画し実施することができてよかった。

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	ソラスト前野町保育園
施設所在地	〒174-0063 東京都板橋区前野町2-1-20 エステート前野町20号棟1階
法人名	株式会社 ソラスト

対象年齢： 5 歳児

1. 活動のテーマ

<テーマ>

いきものについて

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・自然に触れる機会が少ない子ども達に、昆虫や植物の観察を楽しんで欲しいという思い。
- ・昆虫に興味を持つ子が多く、飼育してみたいという子もいた為。
- ・植物にも命があり、様々なものを大切にする気持ちを育みたいという思い。

2. 活動スケジュール

- ・昆虫の観察 ・日々のお世話 (餌やり、霧吹き)
- ・観察対象物をカメラで撮影する
- ・スケッチブックにカメラで撮影した写真、日付、感想などを記入する
- ・スケッチブックには、図鑑を見て気になった生き物や植物を書いても良い

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したのか。準備した素材や道具)

- ・棚に生き物観察スペースを作り、いつでも気になった時に観察できるように設定
- ・キノコの観察では、菌床を購入
- ・給食で出た廃棄する果物や野菜の種をもらい、プランターに埋め観察

準備物ーカメラ・スケッチブック・虫かご・土・カブトムシ餌・昆虫・菌床

4. 保育活動の実践

<活動内容>

- ・カブトムシは幼虫から飼育する予定であったが、購入が遅れてしまい、成虫からの飼育となった。
- ・他、計画通り進んだ。

<保育中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり)

- ・カブトムシは死んでしまうこともあり、涙を流して悲しむ子もいた。興味がない子は「死んでるね」と淡々とした発言をしていたが、泣いている子の様子を見て何かを感じ取っているようであった。
- ・日々の飼育当番を楽しみにしている子がほとんどであり、虫が苦手な子も徐々に触れるようになっていった。

<活動中の様子が分かる写真> ※2枚以上の公開可能な写真



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・カメラで昆虫を撮影する際には、上から撮影する子もいれば、横から撮影する子もいたり、子どもによって表現の仕方が違う事、見え方が違う事を再認識出来た。
- ・保育者の作る環境によって子ども達の興味関心が深まったり、興味がなかった事にも目を向けるきっかけになる事に気づけた。